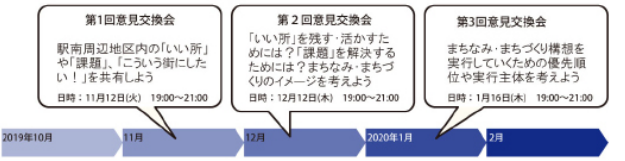
⑤歴史的まちなみ保全、歴史的資産の保存活用提案・まちづくり支援

■亀岡駅南まちづくり構想策定調査　［亀岡市］2019-2023

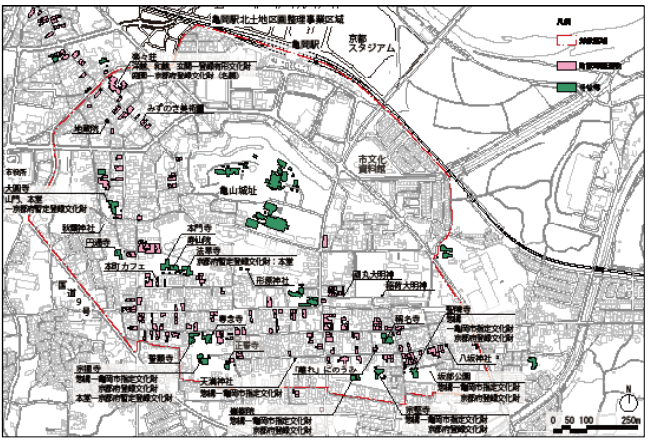
亀岡市は人口約９万人の京都府内第３の都市で、戦国時代に明智光秀が丹波亀山城を築き、町割りを行ったことでも知られる城下町である。江戸期には山陰道の交易と保津川（大堰川）の舟運で栄え、市街には由緒ある社寺や街並みが残されてきた。市の玄関口である JR 亀岡駅は嵯峨野線の快速で京都駅から 17 分圏内、駅北口では土地区画整理事業が進められ、2020 年にはサッカー専用の「サンガスタジアム by KYOCERA)」が完成した。本構想は同駅南口から旧城下町に至る約 110ha を対象とした「都市再生整備計画」の一環としての「まちなみ・まちづくり構想」策定であり、プロポーザルを経て、アプルが特定され、現況調査、既定計画の確認、課題分析と合わせ、市民意見交換会（計３回）を行い、構想策定および早期事業化対象の公共空間整備、街並み保全等の方策提案等を行った。構想内容は市 HP に掲載されパブリックコメントを経て公開に至り、その後もまちづくり支援を継続している。



市民ワークショップのプロセス

まちなみ・まちづくり構想／市 HP 公開版（概要版）

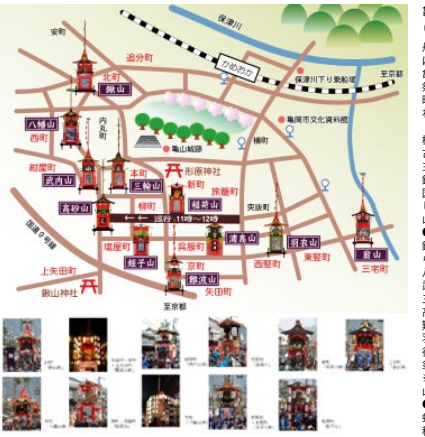
市民意見交換会を伝える「かわら版２号」



対象区域内の町家・歴史的建物等の分布（出典：町家等建物調査報告 H22 をもとに現地調査作図）

市民意見交換会でのポストイットシート例

市内の歴史的建物の活用事例



亀岡祭りの山鉾・全 11 基の紹介（出典：亀岡祭山鉾行事 HP）

亀岡祭

（出典：亀岡市観光協会、亀岡祭山鉾行事 HP）

丹波の祇園祭として親しまれている亀岡祭は、鎌山神社の鎌山宮・八幡宮二社の例祭。亀岡最大の秋祭りとして、大いに賑う。亀岡祭の山鉾は全部で 11 基。23 日の宵々山に各町競い合って山鉾を建て、ちょうちんが飾られる。25 日には山鉾巡行が行われる。

概要

古い土地の祭神を母体としながらも、亀山藩主を始めとする支配階層の祭神をも合祀した鎌山神社の祭礼を媒体として領民との和合を図る中で、亀山藩の保護のもと町衆の祭りとして執り行われてきた。

山鉾一覧

●曳山（ひきやま一鉾形式）

鎌山鉾 - くわやまほこ -（平成 17 年に舁山から曳山に復元新調）

八幡山鉾 - はちまんやまほこ -

武内山鉾 - たけうちやまほこ -

三輪山鉾 - みわやまほこ -

高砂山鉾 - たかさごやまほこ -

難波山鉾 - なんばやまほこ -

羽衣山鉾 - はごろもやまほこ -（平成 14 年に復元新調）

翁山鉾 - おきなやまほこ -

※上記 8 基の山鉾には、伝承されている「曳山囃子」がある。

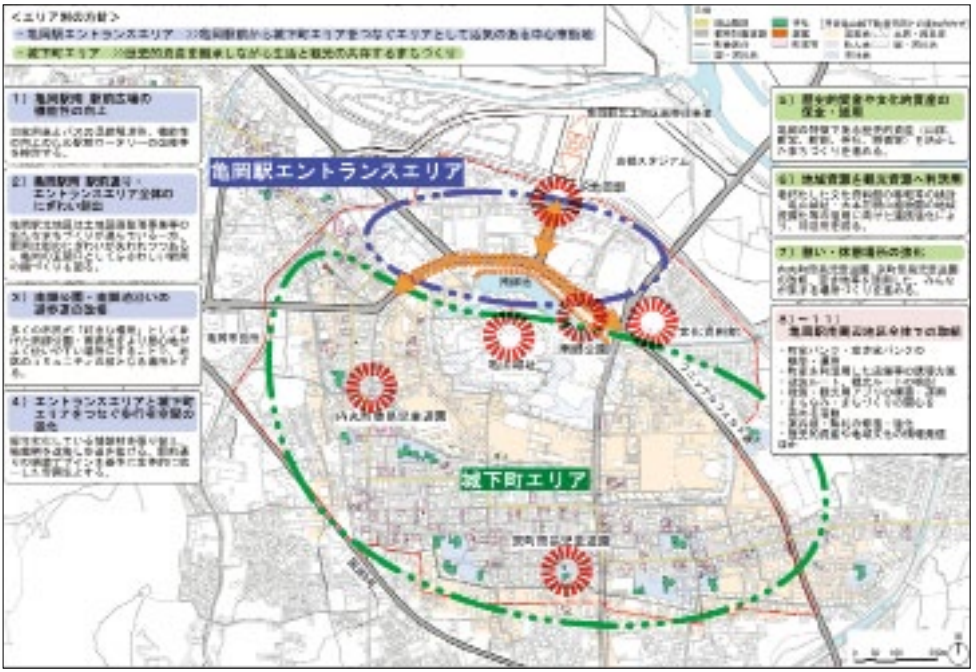
●舁山（かきやま）

蛭子山 - えびすやま -

稲荷山 - いなりやま -

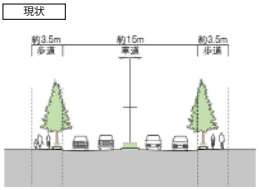
浦島山 - うらしまやま -

■亀岡駅南まちづくり構想策定調査（つづき）



まちなみ・まちづくり構想図（案）

駅南のシンボルロードと駅北を含めた駅南北に連なる新たな亀岡のシンボル軸のイメージ



駅前通り改修後のイメージ

駅前から城址方面をのぞむ

光秀まつり（武者行列）での活用イメージ

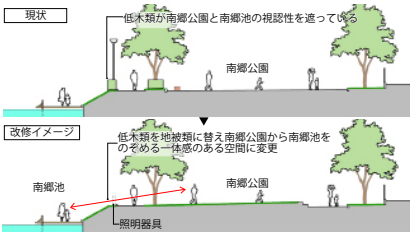
道路空間の活用イメージ

歩道を活用したマルシェ

南郷公園・南郷池沿いの遊歩道　改修後のイメージ

芝生のうえで様々な利用者が憩うイメージ

南郷池沿い遊歩道の夜間景観イメージ



経緯　亀岡駅南周辺地区まちなみ・まちづくり構想策定調査プロポーザル '19.5 ～ 7 (特定）／亀岡駅南周辺地区まちなみ・まちづくり構想策定調査業務委託 '19.8 ～ 20.3 ／市民 WS'19.11 ～ 20.1 ／亀岡駅南周辺地区城下町エリア支援業務 '21.5 ～ 22.3 ／亀岡駅南地区まちづくり事業化検討基礎調査業務委託 '21.2 ～ 22.3 ／亀岡駅南周辺地区城下町エリア支援業務 '22.5 ～継続中／亀岡駅南地区まちづくり事業化支援業務委託 '22.6 ～継続中
諸元　対象面積：約 110ha　　担当：中野、清水、茅根、山本、松浦、津曲、市民 WS 協力・(有) オーバーラップ並河みき
※両頁の図等はすべて市 HP にて公開されたものを使用しています

■結城・伝統的まちなみの保全とまちの活性化　［結城市］2014-17

結城市は茨城県の西部の人口約５万人の歴史都市、国の重要無形文化財「結城紬」で知られるが、自動車社会の進展とともに人口流出も進み、JR 結城駅の北側に広がる旧市街は空洞化し、店舗閉鎖などの問題を抱えてきた。市は駅北口の区画整理、駅前道路の一部拡幅を完了し、市庁舎を駅南に移転を決定した（2020 年竣工予定）。

■結城市街づくり基本方針策定／まちなか整備支援

アプルは歴史的市街再生のための街づくり方針の策定からまちなか整備支援を４か年にわたり、市民意見交換会（WS）の運営や、蔵造り建物の保存と「重要伝統的建造物群保存地区」の指定に向けて、文化庁と県・市との橋渡し役を果たしつつ、住民の方々との意見交換、事例見学会等に関わり、市長さんへの市民意見交換会答申のとりまとめ等に協力してきた。2018 ～ 19 年は文化庁支援の伝統的建造物群保存調査が筑波大学藤川研究室を中心に行われてきた。その間、中野は学経の立場から、市景観検討委員会委員、都市計画道路見直し検討委員会委員長として、側面支援も行ってきたほか、引き続き市景観審議会委員として関わり続けている。

結城の歴史的資源、1600 年代からの街割が残る

市民ワークショップにおいて抽出された課題

確認された課題と改善策提案

平成２６年度より開催している「まちなか整備計画検討ワークショップ」は、今年度で最後となります。最終回のワークショップでは、これまでの取組を振り返るとともに、各ワークショップ委員より感想をいただき、想いを共有いたしました。

また、これまでの取組の成果として、街づくりの事業提案を盛り込んだ『意見提案書』を作成いたしました。今後、『意見提案書』を関係各所に提出し、事業の実現化に向けて提案を行ってまいります。

ワークショップ通信では、当日の様子をお伝えするとともに、『意見提案書』の概要、各ワークショップ委員の想い、アンケートでいただいた主な意見等をお知らせします。

市民ワークショップの状況（H26~29）

■結城・伝統的まちなみの保全とまちの活性化（つづき）

地域資源づくり　街並みづくり

称名寺二条門

課題
- 老朽化とともに壊されていくのはもったいない
- 建物を継いでくれる人が少ない。
- 空家をどうするか
- 称名寺二条門は、すいぶん前から閉じたままになってしまっている

地域資源づくり　御朱印堀

現在の様子

課題
- ゴミが捨てられたりしている
- お寺の中（お墓の中）を通るのは気が引ける…

課題
【掲示および明示方法】
- 近くに行かないと御朱印堀がどこにあるのか分からない

地域資源づくり　新たな魅力づくり

街法右の店舗サイン

現在の路地の様子

課題
- 店舗や住宅の近傍に店名・自宅名を掲げているが店舗か住宅の区別がつかない

良い点
- 路地の雰囲気が良い
- 歩きたくなる雰囲気づくり

見世蔵等の保全・活用

課題
- 建物を継いでくれる人が少ない。
- 空家をどうするか。
- 老朽化とともに壊されていくのはもったいない
- 見世蔵以外にも雰囲気の良い建屋が残っているが、使われていない建物がある。

イベント活用（結い市）

休み処（ふじの蔵）

作品展示・販売（結城蔵美館）

交流サロン（銀座）

道路・交通

課題
- 歩道が狭い
- 道路の拡幅は、特色・良い所をなくす

良い点
- 車道がクランクしている箇所は自動車のスピードがゆっくりで歩行者にとっては安全

結城市まちなか整備計画検討ワークショップ

意見提案書

平成30年3月
ワークショップ委員一同

結城市の中心市街地には、見世蔵、寺社、町家、御朱印堀、町割りなど、数多くの歴史的資源が現存している。この中心市街地の歴史的街並みの保全・活用を目的とし、平成 26 年度より、まちなか整備計画検討ワークショップを通して、意見 交換・検討を行ってきました。

市民ワークショップでは、街の資源を確認し、資源の活かし方・残し方について議論を 行い、今後のまちづくりの方向性を示す「まちなか整備方針」を作成した。また、「まちなか整備方針」を実現していくために、「実現に向けて必要なモノやコト」「主体的 に動いていくヒトや組織」の整理を行い、33 の施策を集約した「街づくりメニュー」を 取りまとめました。

結城市においては、この「まちなか整備方針」に基づき、①歴史的資源の面的な 保全・活用：伝統的建造物群保存地区（伝建地区）指定に向けた取組、②歩行者 にやさしい道路づくり：都市計画道路の見直し・変更、③各歴史的資源の魅力づくり ／回遊性：蔵美館と連携した大町児童公園の改修、などの取組が進められているところであるが、「街づくりメニュー」の残りの施策についても、結城市関係各課、商工団体、市民団体等との連携のもとに、引き続き取り組んでいただきたく、本書のとおり提案いたします。

平成 30 年 3 月 2 日
まちなか整備計画検討ワークショップ 委員一同

市民ワークショップで確認された地域資源

結城の中心市街に残る歴史的建物（社寺・蔵・町家等）と伝統的建造物群保存地区（案）

経緯　結城市街づくり基本方針検討業務委託 ‘14.6 ～ ’15.3 ／結城市街づくり基本方針実施支援業務委託 ‘15.6 ～ ’16.3 ／結城市まちなか整備支援業務委託その 1 ‘16.7 ～ ’17.3 結城市／結城市まちなか整備支援業務委託その 2 ‘17.8 ～ ’18.3 ／伝統的建造物群保存対策調査 ‘18 ～ 19 年度・筑波大学藤川昌樹研究室（協力・小山高専藤井さやか研究室、国士舘大学横内基研究室）　担当：中野、大木、光賀、茅根、清水、石村、山本

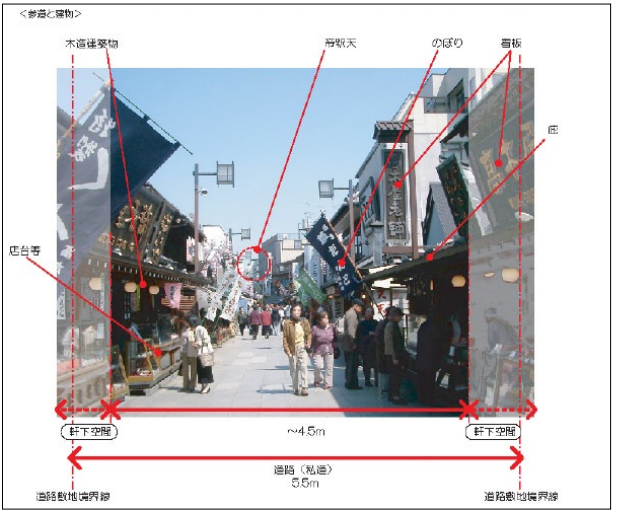
※両ページの図等はすべて市 HP にて公開された資料を使用しています

■都しゃれまち条例・街並みデザイナー派遣・柴又帝釈天周辺地区　［東京都］ 2004-06

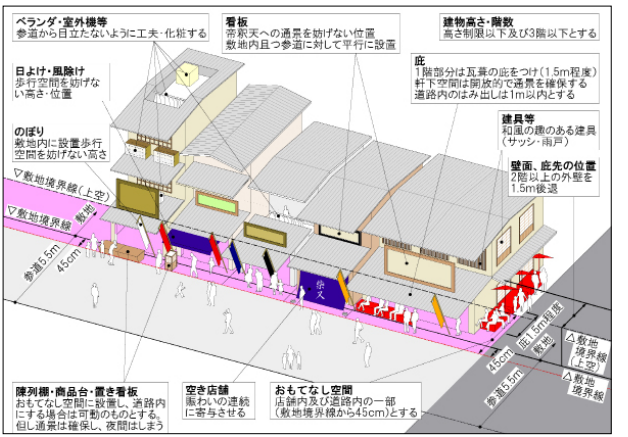
東京のしゃれた街並みづくり推進条例において、柴又帝釈天地区は街並み景観重点地区に指定され、地元神明会主催のプロポーザルを経て、アプル（中野）が同条例にもとづく街並みデザイナーとして選定された。アプルは、アドバイザーとして地元商店主等からなる街並み協議会（準備協議会）に参加し、地元主導での街並みガイドライン検討を 3 か年に亘り支援した。

沿道店舗の営みと参道を行き交う人の流れが交じり合う軒下空間は、地区の特徴的なにぎわいをつくる一方で、緊急車両の通行空間確保等の問題を抱えていた。ガイドライン策定にあたり、建物表層に加え軒下に関するルールづくりを行った。あわせて参道沿いの建物の多くは木造であり、当時の法規制の下で建替え等が進めば、現在の雰囲気を残すことが難しいという課題も残された。

その後も適宜、地元に足を運び、都・区を交えて街並み保全と改善策の模索を進言し、国の「文化的景観地区」に 2018 年 2 月指定された。またアプルから独立した田邊寛子氏が継続的にアドバイザー役を担うことで、更なる街並みの改善が計られてきた。



参道の特徴

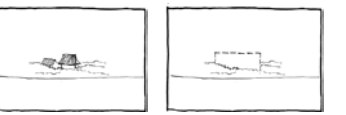


まちなみづくりのルール（案）説明用のイメージ図（田邊寛子作）

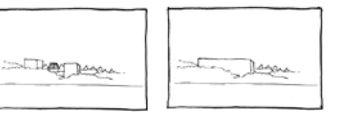
位置図および重点区域内の制限等

当時の参道沿道の街並み状況

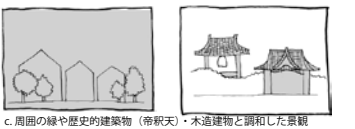
既存の街並みのなかで、建替えされた店舗は道路上の庇のせり出しが無くなり、可動式オーニングが付加され、次第に街並み風情が変化しつつあった。



a. 帝釈天への眺望を阻害するような位置に建てない。

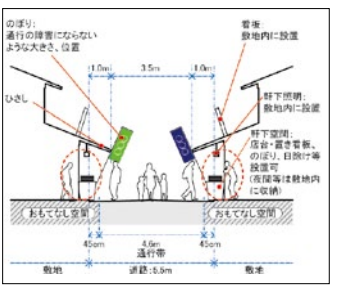


b. 眺望点に対して板状の建物は建てない。



c. 周囲の緑や歴史的建築物（帝釈天）・木造建物と調和した景観形成に寄与する建物とする。

眺望景観の保全（案）



参道のまちなみづくりのルール（案）断面図

経緯　街並みデザイナー選定プロポーザル　'04.08（特定）　街並みデザイナー派遣・柴又帝釈天周辺地区 '04.10 ～ 05.3　東京都・柴又まちなみ協議会、街並みデザイナー派遣（2 年次）・柴又帝釈天周辺地区 05.5 ～ 06.03　東京都・柴又まちなみ協議会、　街並みデザイナー派遣（3 年次）'06.5 ～ 93 東京都・特定非営利活動法人柴又まちなみ協議会 (2006 法人認定）／

担当：中野、加藤、田邊、池田、笠間

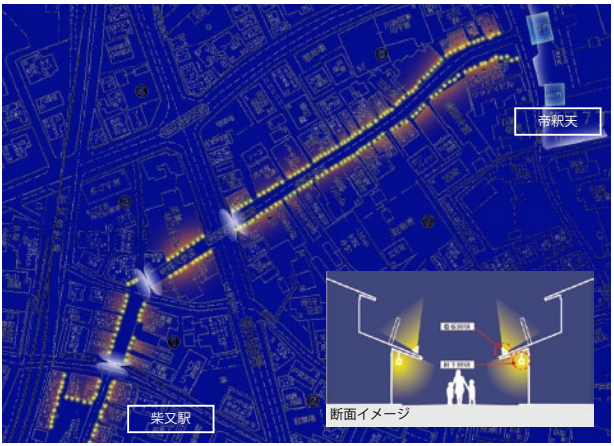
■都しゃれまち条例・街並みデザイナー派遣・柴又帝釈天周辺地区（つづき）

■柴又帝釈天参道ライトアップ　　柴又神明会　2006

街並みデザイナーとしての活動に参加するなかで、沿道 200 m区間の既設の水銀灯によるポール照明を改め、参道商店街の特徴でもある道路上の庇の下に連続的なぼんぼり照明を吊るすとともに、看板を LED 照明等で浮かび上がらせることで、歩行空間もより明るくする手法を提案した。その提案をもとに柴又神明治会で国および東京都の支援を受けた共同施設整備事業を実施、アプルは計画～設計・監理を担当した。

とりわけ沿道関係者立会のもとでの照明実験により、その効果を確認し、各店舗の協力のもとに、新規配管配線類を目立たない位置に設置くすることが可能となった。参道は美しくライトアップされ、下町情緒あふれる通りとなり、夜間の通行人も増えたと言われている。その結果が評価され、2006（平成 18）年照明学会普及賞を受賞した。

雨天のなかで行われた照明実験



照明配置イメージ（平面図）

連続式ぼんぼり照明

従前の状況

同上とゲートアーチ照明

従前の状況

看板照明

京　東部　14版　2004年（平成16年）9月24日　全曜日　朝日

柴又帝釈天周辺

寅さんの街並み 後世に

参道の商店主ら 専門家と景観指針策定へ

観光客でにぎわう帝釈天の参道＝葛飾区柴又で

2004 年 9 月 24 日朝日新聞朝刊（東京版）に掲載された活動の紹介記事

経緯　柴又帝釈天参道アーチ意匠監理 '06.3　かがつう株式会社・柴又神明会／柴又帝釈天参道ライトアップ事業・設計監理 "06.5 ～ 9　柴又神明会
諸元　事業主体：柴又神明会　所在地：東京都葛飾区柴又 7 丁目　参道：幅員 5.5m　延長：188 m　照明工事 (工期）2006.7 ～ 9　ぼんぼり照明 266 基　看板照明 100 基
担当：中野、田邊、池田

■南海電鉄・旧浜寺公園駅駅舎保存活用および広場改修　　[堺市／南海電鉄]　2014-2021

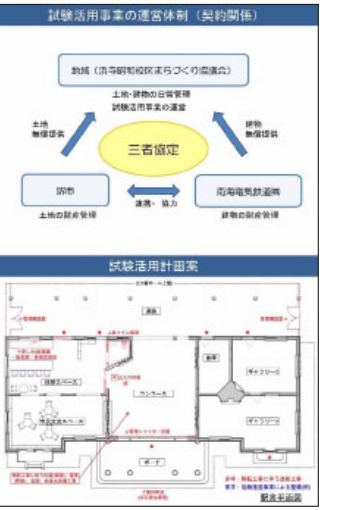
鉄道連続立体交差化事業に伴う駅前広場整備と 1907（明治 40）年築の辰野金吾設計とされる木造駅舎（登録文化財指定）の保存との両立を目指した公開プロポーザルで特定された。提案をもとに浜寺公園駅舎および駅前広場の完成イメージを地元意見交換会を通して出された、イベントに対応した広場形状、街路樹要望等を踏まえ、基本設計を行った。そして意見交換会を継続し、旧駅舎の曳家後の仮活用を前提とした広場内の移転位置検討、試験活用の仕組み、活用計画作成を協働し、17 年 11 月の曳家イベントの開催に至り、地元主導の活用が続けられている。一方で、新駅舎の基本設計および旧駅舎保存活用にかかる意匠監修等にも関与している。

意見交換会に示した模型写真 (完成形)

完成形の駅前広場と旧駅舎を残した新高架駅のイメージスケッチ

段階計画：工事前→曳家・暫定活用→再曳家・竣工

地元小学生による旧駅舎曳家綱引きのイベント光景 ('17 年 11 月)



暫定形の試験活用提案（意見交換会 PPT 資料より）

諸元　所在地：堺市西区浜寺公園町 2 丁目　駅前交通広場：3,700㎡　都市計画道路浜寺公園駅前線 幅員：20m　延長：約 70m　浜寺公園新駅舎／コンコース：889.8㎡　自由通路 222.9m2　構造階数：RC 造一部 S 造地上 3 階　旧駅舎：辰野・片岡建築事務所（辰野金吾・片岡安）、1907（明治 40 年）築、登録有形文化財 (建造物・登録年月日 :19980902) 南海電鉄所有／建築面積：309.48㎡　延床面積：250.09㎡　木造平屋建て／仮補強工事：実施設計・有）NEOGEO、曳家完了 2017 年 12 月、暫定利用中は連立事業広報室・ミニ図書館・カフェ・ギャラリー・イベントホール等多目的利用、運営は浜寺昭和校区まちづくり協議会、NPO 法人浜寺公園駅舎保存活用の会～再曳家・新駅舎竣工・連続立体交差事業完了 2028 年予定

コラム　｜　浜寺公園駅駅舎及び駅前交通広場等計画提案競技

経緯　浜寺公園駅駅舎及び駅前交通広場等計画提案競技 ‘13. 7 ～ 12＜最優秀賞・特定＞／浜寺公園駅駅前交通広場等整備工事基本設計業務 ‘14. 2 ～ 6 堺市／浜寺公園駅修正業務 ‘15.5 ～ 16.3 中央復建コンサルタンツ㈱（南海電気鉄道㈱）／南海本線連続立体交差事業に伴う浜寺公園駅舎改修計画 ‘15.11 ～ 16.10 堺市／浜寺公園駅旧駅舎曳家イベント ‘17.11（参加のみ、約 10 年間現駅前広場内での仮活用中）／浜寺公園駅実施設計監修業務 ‘20.7 ～ 21.3 全日本コンサルタント㈱（南海電気鉄道㈱）／協力：パシフィックコンサルタンツ (土木・交通・‘13. 7 ～ 12/‘14. 2 ～ 6)、LEM 空間工房 (照明デザイン・‘13. 7 ～ 12/‘14. 2 ～ 6)

担当：中野、萩原、清水、大木、光賀、茅根